



社長のひとりごと…

当誌『わいわいくらぶ』は、当社の大切なお客様のために、わたしたち藤本工務店のスタッフが
お伝えさせていただきますコミュニティー誌です。

『思い出が飛び出した。』



夜も更けゆく午後10時頃、“ドカーン”と家に何かぶつかった音。その時、家内は炊事場で洗い物をしていた。目の前でとんでもない音がしたので、飛び上がるほど驚いたらしい。私は居間に居たが、猫が階段から落ちたのか？と思った程度だ。

何せ、我が家の猫は相当な御老体で（もう13年もウチにいる）、階段一段跳び下りるのも、前足で支えきれずアゴを打つ有様なのだ。“コツコツと足音がした”と家内が言うものだから、おそろおそろ懐中電灯を片手に外に見に行くと、外壁に30センチ位の大穴が開いているではないか！

”イノシシじゃない？”と家内は言うが…。

確かにこの付近は、サルやイノシシが出てきても不思議な場所ではなく、村中がサファリーパーク状態である（笑）。とは言うものの、イノシシが家に向かって突進してくるとは考えにくい、ここはイノシシのせいにはしないと家に入れそうもないので、家内の意見に逆らわない事にした。

翌朝見てみると、近くに大きな石が転がっている。“謎は解けた！”家の前は急傾斜地域になっていて、長雨で地盤が緩み落石し、そのゴロゴロと転がる音が足音に聞こえたのである。胸の痞えが取れスッキリとしたのだが、話はこれで終わらなかった。外壁の穴を見てみると、断熱材が入っていないではないか。“手抜き工事じゃないの？”と家内の鋭い突っ込み。我が家は私が25才の時に自分で建てたもので、当時は今の様な断熱材ではなく、土壁塗りが一般的であった。また、具合の悪い事に、工事中に利き腕の指を電気カンナで削り、お腹の肉を移植するというケガを負ったが、退院後、片腕一本で仕上げた家である。そんな中、間取り変更でキッチンを広げた為、その部分だけ土壁を塗っていなかったのである。

また二男が生まれた年でもあり、その年は豪雪で全ての交通機関がストップし屋根雪降ろしに上がれば、ゆうに背丈は越えていた。ミルクを歩いて買いに行った事など、色々な事が思いだされるが、とにかくその日の生活に追われ必死であった様に思う…。お叱りを受けつつも、ひよんな事から31年前の思い出が飛び出した。

まるで家そのものが”思い出の玉手箱”である…。

ではまた、来月もお会いしましょう。
今回も最後まで読んでいただき…。

あーがし ごぞいました!!

